37. 検査予約のための統合環境の開発と運用 (放射線情報管理システムの共同開発)

Development and Experiment of total ordering system

北海道厚生連

○松浦 浩司 (倶知安)
(Koji Matsuura)

栗田 政一 (帯広)
(Masakazu Kurita)

出村 敏幸 (札幌)
(Toshiyuki Demura)

大野 直樹 (旭川)
(Naoki Ohno)

北野 正毅 (遠軽)
(Masaki Kitano)

小野 博明 (網走)
(Hiroaki Ono)

【目的】

北海道厚生連では道内に15施設の病院を経営しており、それぞれ病院規模と地域の実情に合せた検査管理体制を取っている。

検査予約の中でRIは、いろいろな条件に制約された検査であるが、我々は施設間の検査予約様式、薬剤等に関わる様々な差によらず、予約処理からRI薬剤の発注、廃棄までを一元管理し、複雑な行程をできるだけ自動化するシステムを共同開発し、運用を始めたので報告する。

【方法】

システム開発はPC-9801RAで行い、dBASEⅢplus及びコンパイラにて行った。予約管理はパソコンLANを意識して設計しており、予約組込は伝票入力画面、日誌画面など利用者とのインターフェイスの点に留意し作成した。

検査プロトコルを各施設ごとに用意し検査スケジュール、薬剤マスターなどの条件ファイルを参照させることで、病院ごとの予約方式に柔軟に対処した。検査予約は、伝票登録によりシステムが検査プロトコルを参照しながら予約を組み込み、使用予定薬剤リストや使用台帳を作成する。使用台帳から日付ごとの使用予定薬剤リストが抽出され、薬剤発注書や報告書が作成される。過去の検査履歴データを参照することにより、検査の2重登録防止や検査間の干渉が起らないように制御している。

検査項目や核種の登録はバーコードを使用することで作業の省力化と誤入力の防止をはかっている。検査の緊急度に合わせて予約組込期間を指定することでどのような検査にも対応している。

【結果】

①検査履歴を時系列に情報整理ができるので将来のLANによる共有データベース化に、有用なシステムが作成できた。

②予約から、各科への連絡用紙発行、検査日誌作成、薬剤発注リスト、検査台帳の記載などを一連で処理でき、自動で編集される部分まであるので業務内容の省力化と簡素化に有用であった。

③一部の病院では、翌日の検査分のリストを予め医事課に出し会計カードの先だしを行うことで患者さんの待ち時間解消に貢献している。

【考察】

手近にあるパソコンにハードディスクがあれば、どこでも動かすことのできるシステムであり、各施設の実態に柔軟に対応できる。さらに将来パソコンLANによって部門内データの共有化により検査履歴だけではなく検査の付帯情報を入力することで検査精度を高め、患者サービスの向上をめざして行きたい。